

大雪に備えましょう

近年、自然災害が大規模、激甚化する傾向にある中で、令和３年１月のような「異常降雪」の発生が今後も想定されます。大雪を含む自然災害から身を守り、被害を最小限にするためには、災害に対する日々の備えと地域の支え合いが大切です。各家庭や町内で災害への対応について話し合い、日頃から十分な備えをしておきましょう。



高田地区の一斉屋根雪下ろしの状況

＜必要な備え＞

こまめな気象情報の確認

テレビやラジオ、インターネットなどで天気予報を確認し、気象情報や注意報・警報などの情報収集を行いましょう。予想降雪量、雪のピーク（注意を要する時間帯）などを確認し、事前対策の目安としてください。また、停電時にも情報が得られる電池式のラジオなども用意しておきましょう。



ガス水道設備の損傷防止

水道管が破裂しないように、保温材などの取付けや蛇口から細く水を出すことで、凍結を防止しましょう。

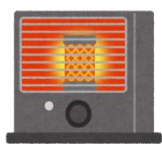
一酸化炭素中毒事故を防ぐため、除雪作業で風呂釜等の排気筒の破損や、給気口を雪で塞がないよう注意しましょう。



停電時に寒さから身を守る

冬の災害に備えるには、夏とは違った対策が必要です。食料や飲料水等の備蓄に加え、十分な防寒具を用意しましょう。

さらに、倒木や着雪による停電の危険性も高まりますので、電源を必要としない暖房器具を準備しましょう。



地盤沈下を防ぐための地下水の節水

消雪のため地下水を多く汲み上げると、地盤が沈下し、住宅などに大きな被害が発生する恐れがあります。地盤沈下注意報及び警報の発令時は、消雪パイプの水をこまめに止め、人力や機械による除雪を行いましょう。



協力した除雪作業

高齢者世帯など、雪かきが困難な世帯については、近隣同士で声を掛け合い、安全に作業ができるように協力しましょう。

降雪期前に、住民が集まる機会をつくり「誰がどのようなことで困っているか」を話し合うことから始めましょう。



不要不急の外出を控える

大雪時は、道路の通行止めや車の立ち往生、公共交通機関の運休が発生するおそれがあるため、不要不急の外出は控えましょう。また、車で立ち往生した場合は、一酸化炭素中毒の危険をなくすため、エンジンを切ることが大切です。



＜家庭や地域での備え＞

	降雪期前	大雪予報	大雪発生
一人ひとりや各家庭でできること	○自主防災組織の役割分担・活動内容について理解する ○家族で防災について話し合う ○除雪用具の点検・準備 	○気象情報等の収集 ○備蓄品、非常持出品の確認・準備 ○水道管の凍結防止処置 ○除排雪を依頼する業者の確認・連絡 ○薬の確保と通院手段の確認	○市ホームページなどで防災情報を確認 ○除雪作業の安全確保 ○不要不急の外出自粛 ○道路への雪だし、路上駐車を行わない ○町内会や自主防災組織が行う災害対応への協力
自主防災組織・町内会で連携して行うこと	○防災知識の普及・啓発 ○町内会の防災体制整備 ○災害発生時の関係機関の連絡先確認 ○避難行動要支援者の把握 ○空き家の把握 ○要援護世帯除雪費助成事業等の補助・助成制度の周知	○資機材や備蓄品の確認 ○組織内での役割の確認 ○現地本部の開設検討・準備 	○現地本部の開設、一次避難住民の受入れ ○地域内の被害状況の確認・市への報告 ○除雪機等資機材の貸出し、備蓄品の提供 ○町内会館・ゴミ集積所等の共同除雪 ○高齢者世帯等の玄関周りの除雪支援

※上記はあくまでも例示です。家庭や地域での災害対応の参考としてください。

＜車内備蓄や装備の準備＞

雪道で立ち往生が起こると、長時間車内で待機しなければならなくなり、寒さや空腹、トイレなどいろいろな問題が発生します。万が一に備えて車内備蓄や装備の準備をしておきましょう。また、運転前には十分な燃料があるか確認しましょう。

備 蓄 ・ 装 備 例



水・食料



凝固剤



毛布



スコップ・長靴



タイヤチェーン

市民安全課 防災係（電話 025-520-5660）

令和5年11月作成